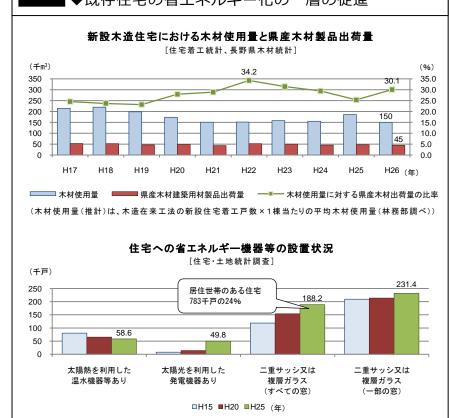
長野県住生活基本計画(案)の概要 住宅施策を取り巻く現状と課題 【計画期間】平成28 年度 (2016 年度) ~平成37 年度 (2025 年度)

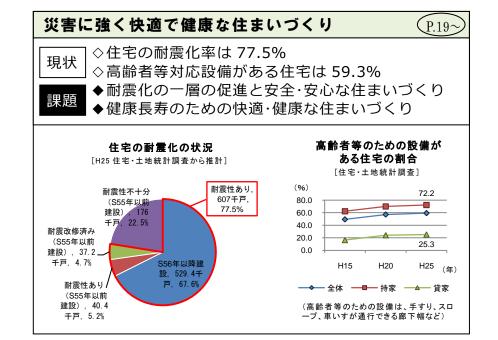
少子高齢化、人口・世帯数減少社会への対応 (P.3~) ◇住宅の量は充足、世帯数との差は次第に拡大 ◇人口は既に減少、世帯数も今後は減少する見込み 現状 ◇少子高齢化は一段と進展する見込み ◆住宅ストック活用型社会への転換と空き家対策 ◆居住ニーズとの不一致の解消 課題 ◆進展する少子高齢社会に応じた居住環境の整備 住宅数と世帯数 人口と年齢構成 [H22までは国勢調査、H27は長野県毎月人口異動調査、H32以降は国立社会保障・人口問題研究所推計(H26.4)] [住宅·土地統計調查] (千戸・ 千世帯 1,400 (千人) (%) 1.200 2.500 50 1,000 1.761 2 000 40 800 1.500 36.0 600 20 1.000 500 ESO 43 47 40, 40, 40, 40, 40, 40, 40, 40, (#) ■ 人口総数 ─-■─ 年少人口割合 ■■■ 住宅数 —■— 世帯数 ──◆── 老年人口割合

地域の資源を活かした環境にやさしい住まいづくり

◇新設木造住宅の県産木材利用は一定量で推移 ◇省エネルギー化された住宅ストックは限定的

◆地域資源の利活用による地消地産の住まいづくり ◆既存住宅の省エネルギー化の一層の促進





誰もが安心して暮らせる住まいの提供

(P.23~)

現状

(P.15~

◇公営住宅入居世帯は、高齢者世帯(特に単身・夫 婦のみ世帯)が増加

◇公営住宅の1/3が耐用年数を経過 ◆住宅セーフティネットの充実

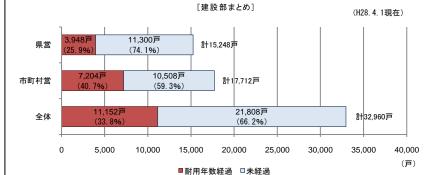
◆公営住宅の計画的な建替や改修等による長寿命化

公営住宅入居世帯の状況

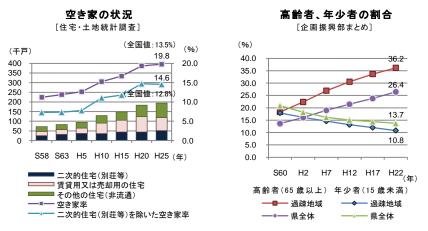
[建設部まとめ]

区分		H28. 4. I		H23. 4. I		増 减	
		世帯数	構成比	世帯数	構成比	世帯数	構成比
入居世帯		27, 422		30, 361		△ 2,939	
마	単 身	6, 724	24. 5%	5, 950	19.6%	774	4. 9
朎	夫婦のみ	1, 901	6. 9%	1, 621	5. 3%	280	1.6
"	その他	2, 566	9. 4%	2, 475	8. 2%	91	1. 2
节	合 計	11, 191	40. 8%	10, 046	33. 1%	1, 145	7. 7
障がい者世帯		3, 820	13. 9%	3, 372	11. 1%	448	2. 8
ひとり親世帯		3, 613	13. 2%	4, 321	14. 2%	△ 708	Δ 1.1
外国人世帯		1, 407	5. 1%	1, 810	6.0%	△ 403	△ 0.8
	7	入居世帯 単 身 夫婦のみ その他 合 計 障がい者世帯 ひとり親世帯	区分 世帯数 27,422 第 身 6,724 夫婦のみ 1,901 その他 2,566 合計 11,191 障がい者世帯 3,820 ひとり親世帯 3,613	区分 世帯数 構成比	区分 世帯数 構成比 世帯数 入居世帯 27,422 30,361 第 単 身 6,724 24.5% 5,950 夫婦のみ 1,901 6.9% 1,621 その他 2,566 9.4% 2,475 合計 11,191 40.8% 10,046 障がい者世帯 3,820 13.9% 3,372 ひとり親世帯 3,613 13.2% 4,321	区分 世帯数 構成比 世帯数 構成比	区分 世帯数 構成比 世帯数 構成比 世帯数 入居世帯 27,422 30,361 △ 2,939 事情 単身 6,724 24.5% 5,950 19.6% 774 夫婦のみ 1,901 6.9% 1,621 5.3% 280 その他 2,566 9.4% 2,475 8.2% 91 合計 11,191 40.8% 10,046 33.1% 1,145 障がい者世帯 3,820 13.9% 3,372 11.1% 448 ひとり親世帯 3,613 13.2% 4,321 14.2% △ 708

公営住宅の管理状況



地域の特性に応じた活力あるまち・むらづくり ◇増加する空き家で防災・衛生・景観等の悪化の懸念 現状 ◇過疎地域における少子高齢化が顕著 ◆既存住宅の有効活用と状況に応じた除却・建替え ◆景観育成等による個性豊かな特色ある地域づくり 空き家の状況 高齢者、年少者の割合 [住宅·土地統計調査] 「企画振興部まとめ] (全国値:13.5%) (%) (%)



地域の住まいを支える住生活産業の成長・発展 (P.11,30~

◇「信州らしい住まい」への共通イメージ

◇木造住宅建設の担い手である大工等技術者は減少

課題

現状

◆地域に根ざした良質な住まいづくり

◆その担い手の確保・育成や技能・技術の継承

「信州らしい住まい」のイメージ

[H27 住まいに関する県民アンケート(建設部)]

イメージ	キーワード
自然と調和した住まい	自然豊か(水、空気、緑、山、森林)、自然素材、景観 等
木を活かした住まい	木造、県産材、まきストーブ、生垣、庭木 等
農業を取り入れた住まい	家庭菜園、田園風景、自給自足、農家住宅 等
伝統、文化と調和した住まい	古民家、和風、地域文化、旧街道、田舎の原風景、昔ながら、在来工法 等
寒冷地に適した住まい	高断熱、冬寒くない、床暖房、雪に強い 等
あたたかい交流のある住まい	近所付き合い、世代間交流、三世代同居、縁側 等
ゆとりのある住まい	一戸建て、隣家との間隔が広い、駐車場が広い、広い間取り、庭 等
自然エネルギーを活用した住まい	高い晴天率、太陽光・太陽熱、通風 等
〇その他	·

- ・近隣同士のつながりがあり、幅広い年齢層の人々が生き生きと生活できる
- はっきりした四季を感じることができる ・豊かな自然の中で、子どもたちがのびのびと育つ
- ・多少の不便さがあっても、ゆったりのんびり住んでいける(交通の便が悪い、公園が少ない)



基本理念

~信州の住みよい暮らしを次代につなぐ~

安心ですこやか、多様な暮らしを支える住まいをめざして

基本的な 視 点

- ○**少子高齢化、人口・世帯数減少社会**への対応
- ○地域の特性や実情への配慮
- ○暮らしに関わる**他分野との連携**



